

2020 消費税法 受講生の皆様へ

実力確認テスト5 訂正のお知らせ

表題の教材につきまして、下記のとおり訂正がございますので、ご連絡申し上げます。受講生の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

訂正に伴い、大幅に変更されます解答（計算ページ）につきましては、訂正版の解答（計算ページ）をご一緒にアップいたしますので、そちらをご覧ください。

**【該当箇所】問題文 F8 (6)下 なお書き**

(誤) 事務所用建物を38,910,000円で

(正) 倉庫用建物を3,891,000円で

※ 事務所用建物の取得価額が1,000万円を超える場合、高額特定資産の取得にあたり、問題文の「前課税期間において免税事業者に該当する」との記載と矛盾してしまうため、1,000万円以下の調整対象固定資産の取得に変更いたしました。

**【該当箇所】問題文 F8 (6)下 なお書き**

(誤) 仲介手数料1,110,000円

(正) 仲介手数料111,000円

**【該当箇所】解答 P6～P12について**

訂正版をアップロード致しましたので、学習の際には、訂正版を使用して頂きます様、お願い致します。

**【該当箇所】解答 P6 (2) 課税資産の譲渡等にのみ要する仕入れに係る対価の返還等**

(正) 金額 57,364円

## ① 国内分

$$210,000 \times \frac{6.3}{108} + (287,000 + 180,000 \times \boxed{2}) \times \frac{7.8}{110} = 45,364$$

## ② 輸入分

$$12,000 \times \boxed{2}$$

## ③ ①+②=57,364

※ 210,000円について、前課税期間(平成30.10.1～令和1.9.30)に行った仕入れであり、棚卸資産に係る税額調整の適用を受けた棚卸資産であるため、経過措置に伴い、6.3/108を用いて計算が行われるため、上記の様に訂正いたします。

**【該当箇所】解答 P6 (3) 棚卸資産に係る調整税額の計算**

(正) 棚卸資産に係る調整税額 96,891円

$$(1,220,000 + 441,000) \times \frac{6.3}{108} = 96,891 \text{ (加算調整)}$$

※ 棚卸資産の調整について、前課税期間(平成30.10.1～令和1.9.30)に行われた仕入れであり、経過措置に伴い、6.3/108を用いて税額調整が行われるため、上記の様に訂正いたします

**【該当箇所】解説 P13 図表一番下 資産の取得状況**

---

(誤) 事務所用建物

(正) 倉庫用建物

**【該当箇所】解説 P19 区分表 仕入れ取引 課のみ 3.棚卸**

---

(誤) 7.8/110

(正) 6.3/108

**【該当箇所】解説 P19 区分表 仕入れ取引 課のみ 仕入れ返還**

---

(誤) 3.(5)② 210,000

(正) 削除

**【該当箇所】解説 P19 区分表 仕入れ取引 課のみ 仕入れ返還**

---

以下の金額を区分表に追加してください。

(正) 6.3% 3.(5)② 210,000

東京リーガルマインド 税理士事業本部

お問合せ：LECコールセンター ナビダイヤル 0570 - 064 - 464

(月～金9:30～20:00 / 土・祝10:00～19:00 / 日10:00～18:00)

※ナビダイヤルは、通話料はお客様のご負担となります。 ※PHS・IP電話からはご利用できません。

[第二問] - 50点 -

I 基準期間における課税売上高（納税義務の有無の判定）

金額	計算過程（単位：円）
	〔基準期間における課税売上高の計算（納税義務の有無の判定）〕
	$19,200,000 \times \frac{100}{108} - 1,390,000 \times \frac{100}{108} = 16,490,740$
	$16,490,740 \quad \boxed{2} > 10,000,000 \quad \therefore \text{納税義務あり}$

II 課税標準額の計算

金額	計算過程（単位：円）
40,080,000 円	〔課税標準額の計算〕
	$28,478,000 + 14,410,000 + 1,200,000 \quad \boxed{2} = 44,088,000$
	$44,088,000 \times \frac{100}{110} = 40,080,000 \quad (\text{千円未満切捨})$

III 課税標準額に対する消費税額の計算

金額	計算過程（単位：円）
3,126,240 円	〔課税標準額に対する消費税額の計算〕
$\boxed{2}$	$40,080,000 \times 7.8\% = 3,126,240$

IV 課税売上割合の計算

金額	計算過程 (単位：円)
$\frac{39,048,182\text{円}}{46,723,182\text{円}}$	<p>[課税売上割合の計算]</p> <p>(1) 7.8%課税取引</p> <p>① 40,080,000</p> <p>② <math>750,000 \times \frac{100}{110} + 500,000 = 1,181,818</math> [2]</p> <p>③ ①-②=38,898,182</p> <p>(2) 非課税資産の輸出取引等 150,000 [2]</p> <p>(3) 非課税取引 <math>25,000 + 7,200,000</math> [2] <math>+ 6,000,000 \times 5\%</math> <math>+ 3,000,000 \times 5\% = 7,675,000</math></p> <p>(4) 課税売上割合 <math display="block">\frac{(1)+(2)}{(1)+(2)+(3)} = \frac{39,048,182}{46,723,182} = 0.8357\cdots &lt; 95\%</math></p> <p style="text-align: right;">∴ 按分計算必要</p>

V 課税仕入れ等の税額の合計額の計算

金額	計算過程 (単位：円)
<p>課税資産の譲渡等にのみ要する課税仕入れ等の税額の合計額</p> <p>1,980,730 円</p>	<p>〔課税仕入れ等の税額の合計額の計算〕</p> <p>(1) 課税資産の譲渡等にのみ要する課税仕入れ等の税額の合計額の計算</p> <p>① 国内分</p> $16,397,000 + 4,901,000 + 912,000 \times 2 + 503,000 \times 2$ $+ 1,265,000 + 2,940,000 = 26,918,000$ $26,918,000 \times \frac{7.8}{110} = 1,908,730$ <p>② 輸入分</p> $72,000 \times 2$ <p>③ ①+②=1,980,730</p>
<p>課税資産の譲渡等にのみ要する仕入れに係る対価の返還等に係る税額等の合計額</p> <p>57,364 円</p>	<p>(2) 課税資産の譲渡等にのみ要する仕入れに係る対価の返還等に係る税額等の合計額の計算</p> <p>① 国内分</p> $210,000 \times \frac{6.3}{108}$ $+ (287,000 + 180,000 \times 2) \times \frac{7.8}{110} = 45,364$ <p>② 輸入分</p> $12,000 \times 2$ <p>③ ①+②=57,364</p>
<p>棚卸資産に係る調整税額</p> <p>96,891 円</p> <p>2</p>	<p>(3) 棚卸資産に係る調整税額の計算</p> $(1,220,000 + 441,000) \times \frac{6.3}{108} = 96,891 \text{ (加算調整)}$

V 課税仕入れ等の税額の合計額の計算（続き）

金額	計算過程 (単位：円)
<p>その他の資産の譲渡等のみ要する課税仕入れ等の税額の合計額</p> <p style="text-align: right;">420,349 円</p>	<p>(4) その他の資産の譲渡等により要する課税仕入れ等の税額の合計額の計算</p> $2,400,000 + 3,500,000 \times \boxed{2} + 28,000 = 5,928,000$ $5,928,000 \times \frac{7.8}{110} = 420,349$
<p>課税資産の譲渡等とその他の資産の譲渡等に共通して要する課税仕入れ等の税額の合計額</p> <p style="text-align: right;">619,851 円</p>	<p>(5) 課税資産の譲渡等とその他の資産の譲渡等に共通して要する課税仕入れ等の税額の合計額の計算</p> $290,000 + (558,000 - 84,000) \times \boxed{2} + 1,253,000$ $+ (296,000 - 2,500) \times \boxed{2} + 100,000 \times \boxed{2} + 331,000 + 6,000,000 \times \boxed{2}$ $= 8,741,500$ $8,741,500 \times \frac{7.8}{110} = 619,851$

VI 控除対象仕入税額の計算

金額	計 算 過 程 (単位：円)
個別対応方式による仕入控除税額 2,538,287 円	〔個別対応方式による仕入控除税額の計算〕 $(1,980,730 + 96,891 - 57,364) + 619,851 \times \frac{39,048,182}{46,723,182}$ $= 2,538,287$
一括比例配分方式による仕入控除税額 2,557,730 円	〔一括比例配分方式による仕入控除税額の計算〕 $\left\{ (26,918,000 + 5,928,000 + 8,741,500) \times \frac{7.8}{110} \right.$ $\left. + 72,000 + 96,891 \right\} \times \frac{39,048,182}{46,723,182}$ $- 45,364 \times \frac{39,048,182}{46,723,182} - 12,000 \times \frac{39,048,182}{46,723,182} = 2,557,730$
比 較	〔比 較〕 $2,538,287 < 2,557,730 \quad \therefore 2,557,730$
調整対象固定資産の判定	〔調整対象固定資産に関する仕入に係る消費税額の調整税額の計算〕 (1) 調整対象固定資産の判定 倉庫用建物 $(3,891,000 - 111,000) \times \frac{100}{108}$ $= 3,500,000 \quad \boxed{2} \geq 1,000,000 \quad \therefore \text{該当する}$  コンピューター $1,219,320 \times \frac{100}{108} = 1,129,000 \quad \boxed{2} \geq 1,000,000$  $\therefore \text{該当する}$

VI 控除対象仕入税額の計算（続き）

金 額	計 算 過 程 （単位：円）
<p>変動の調整税額 63,393 円</p>	<p>(2) 変動の調整（倉庫用建物）</p> <p>① 仕入れ等の課税期間における課税売上割合</p> $\frac{16,501,740 \text{ (注1)}}{75,211,740 \text{ (注2)}} = 0.2194 \dots \boxed{2}$ <p>(注1) <math>16,490,740 + 11,000 = 16,501,740</math>  (注2) <math>16,501,740 + (10,000 + 7,200,000 + 30,000,000 \times 5\% + 50,000,000) = 75,211,740</math></p> <p>② 通算課税売上割合</p> $\frac{16,501,740 + 20,519,000 \text{ (注1)} + 39,048,182}{75,211,740 + 28,131,000 \text{ (注2)} + 46,723,182}$ $= \frac{76,068,922}{150,065,922} = 0.5069 \dots$ <p>(注1) <math>(21,500,000 - 997,000) + 16,000 = 20,519,000</math>  (注2) <math>20,519,000 + (12,000 + 7,200,000 + 8,000,000 \times 5\%) = 28,131,000</math></p> <p>③ 著しい変動の判定</p> <p>(イ) 変動率</p> $\frac{0.5069 \dots - 0.2194 \dots}{0.2194 \dots} = 1.310 \dots \geq 50\%$ <p>(ロ) 変動差</p> $0.5069 \dots - 0.2194 \dots = 0.2874 \dots \geq 5\%$ <p style="text-align: right;">∴ 著しい増加</p> <p>④ 調整対象基準税額</p> $(3,891,000 - 111,000) \times \frac{6.3}{108} = 220,500 \boxed{2}$ <p>⑤ 調整税額</p> $220,500 \times 0.5069 \dots - 220,500 \times 0.2194 \dots = 63,393$ <p style="text-align: right;">(加算調整)</p>



VI 控除対象仕入税額の計算（続き）

金額	計算過程 (単位：円)
転用の調整税額 23,709 円	(3) 転用の調整 (コンピューター)  ① 調整割合等 平成 30 年 4 月 1 日から令和 2 年 6 月 1 日まで 2 年超 3 年以内の転用 $\frac{1}{3}$ の調整 非課税業務用 → 課税業務用  ② 調整対象税額 $1,219,320 \times \frac{6.3}{108} = 71,127$  ③ 調整税額 $71,127 \times \frac{1}{3} = 23,709$ [2] (加算調整)
控除対象仕入税額 2,644,832 円	[控除対象仕入税額の計算]  $2,557,730 + 63,393 + 23,709 = 2,644,832$

Ⅶ 売上げに係る対価の返還等の金額に係る消費税額の計算

金 額	計 算 過 程 (単位：円)
53,181 円 ②	〔売上げに係る対価の返還等の金額に係る消費税額の計算〕 $750,000 \times \frac{7.8}{110} = 53,181$

Ⅷ 貸倒れに係る消費税額の計算

金 額	計 算 過 程 (単位：円)
58,333 円 ②	〔貸倒れに係る消費税額の計算〕 $1,000,000 \times \frac{6.3}{108} = 58,333$

Ⅸ 控除税額小計の計算

金 額	計 算 過 程 (単位：円)
2,756,346 円	〔控除税額小計の計算〕 $2,644,832 + 53,181 + 58,333 = 2,756,346$

Ⅹ 納付税額又は還付税額の計算

金 額	計 算 過 程 (単位：円)
(納 付) 税額 369,800 円 ②	〔納付税額又は還付税額の計算〕 控除不足還付税額 $3,126,240 - 2,756,346 = 369,894$ $369,894 \rightarrow 369,800$ (百円未満切捨)